

8. Ladies' Association of JSME

8.1 Ladies' Association of JSME の活動目的

2016 年 4 月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（通称、女性活躍推進法）が施行され、女性の活躍を積極的に推進する社会が求められている。過去を振り返れば、1986 年に「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」（通称、男女雇用機会均等法）が雇用時の均等な取り扱い、配置・昇進など労働条件で、女性労働者であることを理由に男性労働者と差別的に取り扱うことの禁止が求められていた時代から約 30 年が経ち、女性の活躍に対する社会の期待は大きく変わりつつある。

2015 年度の大学・大学院工学部の女子学生は、大学 13.6%、大学院 11.6%(文部科学省「学校基本調査」)の割合となっており、他の分野に比べて女性の割合は低いのが実情である。特に機械工学分野は、文部科学省の 2015 年度の学校基本調査⁽¹⁾では、関係学科別学生数の女性比率が 4.5%と最下位となっており、日本機械学会の女性会員についても、2016 年 11 月末で会員数、35,491 人に対して、女性会員が、933 人で、割合は 2.6%である。

機械工学分野では、女性比率が低いため、ロールモデルとなる身近な存在が少なく、女性が孤立した中で悩みを抱える状況になることが多いと思われる。また、中学生くらいまでは理系科目に興味を持ち、科学実験などが好きな女子生徒も多いが、将来の進路を考える際に、機械工学が候補として挙がることは少ないのが実情である。その原因は、機械工学分野で、どのような勉強ができるのか、研究成果がどのように実生活へつながるのか、将来のキャリア形成がどうなるのかなどの情報提供が充分でないことにある。その結果、女性の機械工学分野への進出の遅れにつながっている。しかしながら、今後の機械工学の発展には、異分野の融合や、グローバル化など、多様性が求められ、機械分野で多くの女性が研究、開発活動で活躍し、研究開発への取り組みの視点としても男女の偏りが無い状況となることが求められる。このような背景から、Ladies' Association of JSME (LAJ 委員会)は、機械工学の情報発信、女性ネットワークの形成を通して、機械工学分野における女性研究者・技術者の活動を支援し、女性会員の増強を図るために、2004 年 10 月に日本機械学会の会員部会の下部組織として発足した。2017 年には、その活動も 13 年目を迎え、以下の目標を掲げて、さまざまな取り組みを進めている。

1. 機械工学分野で活躍している女性の積極的な情報発信
2. 機械工学に携わっている女性のネットワークの充実化と拡大
3. 性別をこえた研究・職場の環境づくり

LAJ の主な活動は、年次大会などを利用して、女性研究者・技術者の情報共有の場を提供するために開催するイベントや、アフターファイブなど、プライベートな時間を利用して、女性研究者・技術者のネットワークを広げるために開催する女性エンジニア交流会、また、将来の機械系女性研究者・技術者を増やす土台づくりのために、中学校、高等学校で行う出前授業である。LAJ 委員会は、每期、10 名前後の委員で構成され、内容を議論しながら活動を進めている。委員は、産学の女性研究者・技術者に数名の男性研究者・技術者も含まれ、バランスのとれた活動を目指している。以下の項で、その活動について詳細を述べる。

8.2 Ladies' Association of JSME の活動内容

(1) 女性フォーラム

年次大会や支部と連携した企画の中で、情報提供、議論の場を設けるために、基調講演、パネルディスカッションなどを行うフォーラムを開催している。2005年の初回は、企業や国立研究所の第一線で活躍されている女性研究者・技術者を招いて、ロールモデルが示された。女性フォーラム開催の活動を進める中、さらに身近なロールモデルの提供や、取り巻く環境の実態を議論することの必要性が求められ、2008年度の女性フォーラムでは、「機械道一太郎と花子のキャリア形成」と題して、育児、出産、若い人の離職など女性研究者・技術者の実態に関する議論がなされた。また、2014年度には、「若手→中堅→ベテラン・リケジョが働き続けるために」と題して、世代ごとの現状などが議論されるとともに、10年間のLAJの取組についての総括がされた（図1）。

年次大会では、昼休みの時間を利用したランチミーティングにより、参加者同士の交流の場も提供している。また、各支部と連携して女性研究者・技術者向けの懇談会などの活動も行っており、参加者のネットワーク形成の一助となっている。



図1 2014年度全国大会「女性フォーラム」

(2) 女性エンジニア交流会

女性研究者・技術者の人的なネットワークの拡充を目的として、女性エンジニア交流会を開催している。2011年度に第1回目の交流会が東京で開催され、2012年度には、東京、名古屋での開催、2013年度には、関東、名古屋、関西、九州と、徐々に開催都市を増やし、2016年度には、北海道から九州まで、7会場で開催するまでに至っている。各回とも盛況で、参加者にはリピーターとなる方もおり、女性エンジニア交流会へのニーズは非常に高い。

初期の交流会は、社会人、学生を交えて情報共有する場を設けてネットワーク拡充を進めていたが、学生参加者にとっては、自分のキャリア形成にも関係するために、どうしても、学生から社会人への進路相談の色合いが濃くなる傾向があった。社会人の参加者には、仕事環境の悩みを共有する場が欲しいというニーズもあり、現状では、参加者を社会人に限定した交流会も企画している。参加資格は、機械学会会員に限定していないこともあり、他分野の参加者との人的なネットワーク構築に役立っている。全国各地での開催を進めており、参加者数や参加者の感想からも、交流会のニーズの高さを感じる。しかし、関東など企業、大学などが多く存在する地域では顕著でないが、東北や九州での交流会では、その開催地域で想定される参加者の拠点範囲が広がる傾向があるため、交流会会場が遠方となり交通費が高く、参加が難しいという声も聞こえている。今後も課題への対応も含め、参加者ニーズを反映した、より良い交流会の継続が期待される（図2）。



図2 女性エンジニア交流会

(3) 中高生向けイベント

女性研究者・技術者の育成のためには、将来の進路を考える時期を迎えている高等学校、中学校に在学する女子生徒に向けて、早期の段階で機械工学の実態を伝えることが重要である。そこで、女子中学校・高等学校に赴き、機械工学分野で活躍する女性研究者・技術者を講師とした出前授業を実施している。

発足当初は、女子中学生・女子高校生向けのサマースクールという形で、イベントを企画し参加者を募る形態をとっていたが、参加者の応募を待つことになり、また、応募する参加者は、ある程度の機械工学の知識、あるいは、興味、情報を持っている女子生徒となる傾向があった。そのため、機械工学についての情報がない女子生徒たちには、情報提供をすることができない課題が見えてきた。

そこで、機械工学に関する情報の少ない女子生徒にも、積極的な働きかけが出来るように、2009年度より、女子中学校・高等学校を中心に、女性研究者・技術者を派遣し、出前形式で講義、情報交流を行う出前授業を開催するようになった。

出前授業は、女子校を中心に授業を行っている。2013年度からは、男女共学校での授業も行い、男子生徒への女性研究者・技術者の実情に関する情報発信につながっている。2016年度までに、24回の出前授業を開催し、生徒や先生方に向けて、ロールモデルとなる女性研究者・技術者から、実際の生活環境や研究、開発活動の内容を具体的に説明することで、機械工学に携わる女性研究者・技術者の実情を生徒たちに対して、リアリティーのある情報提供を行っている。出前授業では、生徒だけでなく、先生方や保護者の方々と情報交換をすることもある。そこから聞こえてくるのは、進路指導において、エンジニアの仕事や生活を実感できないことで、生徒たちの進路として工学分野を勧めにくい面があるという課題である。出前授業での情報提供は、生徒だけでなく、進路決定に関係する方々にも役にたっている。また、共学校では、男子生徒にも参加してもらおう機会があるが、女性研究者・技術者と同僚になり一緒に活躍する彼らにも、女性エンジニアの話聞くことで、男女の相互理解が進むと考える（図3）。



図3 出前授業風景

8.3 Ladies' Association of JSME に期待するもの

女性研究者・技術者のネットワーク作り、将来の機械工学を担う人材への情報発信など、LAJの活動は、その効果が見えにくい面があるが、社会的な影響もあるなか、日本機械学会の女性会員数の割合が、2005年の時点で1%強であったものが、2016年度には2.6%となっており、LAJの活動が少なからず、女性会員の増強、支援の後押しとなっていると考える。

日本機械学会も、2016年度に第1回メカジョ未来フォーラムを開催したことや、女子学生を対象とした顕彰制度を設けるなど、女性研究者・技術者に対する支援活動が増えてきた。

これらの活動が、機械系女性研究者・技術者の増加につながるためにも、そのベースとなるネットワークを構築するLAJが担う役割は重要となる。LAJは、メールマガジンやFacebookの利用、ホームページでの活動紹介、女性エンジニアへの理解を深めるためにメカジョファイルを発行するなど、インターネットを利用した情報発信を積極的に行っており、新しい試みに対しても柔軟に対応している。この柔軟性を生かし、「メカジョ」という言葉が広く浸透し、女性が当たり前のように、機械工学を語り合えるネットワークが構築できるように継続した活動を期待する。

[秋葉 敏克 (株)東芝]

参考文献

(1) 学校基本調査－平成27年度（確定値）結果の概要（2015年12月），文科省

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1365622.htm（参照日2017年3月19日）